



# 十年間を振り返って

「手をしなぐいふ、心をしなぐいふ」

みどりの丘 施設長・セキ管理者 山崎 乃連子

この10年間にみどりの丘から旅立たれた方々のことを一人一人想いだす時、改めて命に関わるこの仕事を選んだことの重さと、意味の大きさを感じる時があります。

それぞれのの方々の旅立ちの場面を思い出すと、最後にはいつもその方の手を握っている自分がいまいます。私が、子どものころの記憶で印象に残っているのは、いつも父母や祖母に手をつながれている姿です。しっかりと握られた手の感覚は今でも鮮明に覚えています。父のひざの上で抱かれていたこと、母や祖母が幼稚園に迎えに来てくれた帰り道のこと。それぞれ人のぬくもりを感じながら過ごした記憶は、私の宝物です。

そして母になり、わが子の手をつなぎ過ごした日々もかけがえのない体験として私を育ててくれました。愛するものと繋がっている自信は、私の心を豊かにし、豊かな心が相手を守る強さに変わっていくことを実感しました。

今また、旅立つ方を見送る私は、その方のそばで手を握りしめています。長い人生の中で、みどりの丘は短い時間のご縁かも知れませんが、その最終章にお付き合いできる感謝の気持ちを込めてしっかりと手を握ります。振り返ると、「私の人生はなんて幸せなものでしょう」。いつも誰かと繋がっている実感をもって日々を送って来られました。そしてこれからもみどりの丘を選んで下さった方々のために、そして私自身のために、しっかりと手をつないで生きて行きたいと思っています。私の愛する人たちからもう力をまた、愛情に変えてお返しをするために・・・手をつなぐことは心をつなぐ事と信じて・・・



あり日の入居者

## ターミナルケアと向かい合う (接し方と気構え) みどりの丘 厚木主任 平津 晴美



このみどりの丘が開設して10年になります。入居をされている方の中には、長きにわたりこの施設で最後の人生を過ごされる方も多くなって参りました。このような状況に移行していく中で、昨年、みどりの丘厚木本館建替えとして訪問看護ステーション「医務室」が開設されました。これまでは入居者の終末は病院で・・・、これまで終末対応にはおもに救急車による病院搬送として院内での一人さびしい旅立ちのように感じておりました。本館建替えのタイミングに合わせ、協力の医師の協力、訪問、ケアスタッフそしてご家族の協力により、ターミナルケアの実務に着手いたしました。そして早くも1年が経ちこの間に7名の方がターミナルケアを利用され、たくさんの方々のスタッフに看られながら旅立っていかれました。まさしくこれが施設長「山崎」持論「最後まで精一杯みてあげたいね」の言葉の中にある私たち職員の内念なのです。

いくらターミナルケアの研修を積み上げていても現実には緊張が張り詰めます。ガン末期で終末期状態に入ると、ケア職員は交替勤務をしながら生活介護に携わり、特に深夜での介護は不安と緊張で精神的にも疲労感を持ちます。僅かの状態変化にも医務部(看護師)への状況連絡そして対応方法の調整をし、医務室からは協力担当医師への病状報告、また往診時に細かい指示をいただきスタッフはこれを忠実に沿うようにします。

ある終末期を迎えた状態を訪問清水所長は、「Aさんは今皆さんに終末期を体で教えてくれている。しっかりと自分の体で覚えなさい」とこのように話されました。本日に日によって変化していくターミナルケア、正しい知識と介護、援助の方法等様々なことを考え学んでおります。ターミナルケアでの大切なことは、①信頼関係を持つ、②コミュニケーションを十分に持つ③安心感を持ってもらう④誠意を示す⑤日々の変化に気付く⑥医療との情報交換⑦死に対する心の準備⑧孤独感の解消等等です。今後、このターミナルケアを続けることは人間の死を自然に受け止めること、死を常に思うことが今を生きていることです。少しでも不安や孤独感を持たせない、そして人間としての尊厳を失わないように精神的配慮をし、知識と役割を更に習得していきたいと思えます。



## みどりの丘共済(MM)について

運営委員 山口 章二



これまで職員積立て制度として「グリーンズミーティング」を構成しておりましたが、これを更に多角的友好的に職員に還元されるような共済制度に変更いたしました。

みどりの丘共済制度(MM)はみどりのM、ミューテュアルのM)は、社員の日々の健康と仕事生活への充実を促し、喜び、悲しみとともに分かち合い、互いの生き方を尊重しながら、生きている事の実感と人間同士の互いの結びつきを信じ、優しい人間関係を作り上げていく事を目的としています。

### みどりの丘共済(MM)の一部をご紹介します。

社員は入社と同時に「短時間パート含む」入会いたします。積立金として職員は毎月400円、会社は一職員あたり300円を拠出し合い、運営資金と致します。

新MM制度は特に職員の慶弔にも趣を置き運営したいと考えています。主な慶弔の内容を紹介いたします。(資金状況で見直しを致します)

出産祝い金(本人又配偶者)	一万円
入院見舞金(本人)	五千円
表彰に値する行為	五千円〜一万五千円
海外視察(会社派遣の場合)	一万円
災害見舞金(倒壊・火災等)	一万円
弔慰金(本人・配偶者の場合)	一万円
(子供・本人の実両親)	五千円
退職記念品	一年以上三年まで 三千円 三年以上六年まで 五千円 七年以上十年まで 一万円 十一年以上 一万五千円上限
永年勤続	三年間連続勤務 二万円 五年間連続勤務 三万円 十年間連続勤務 七万円 十五年間連続勤務 十万円 二十年間連続勤務 十五万円
昇進祝い金	管理者 四千元 責任者 四千元 主任 三千円 副主任 二千円
サービス提供責任者	三千円

本人希望で記念品や商品券の場合もあります。このほかにも当社社員貸付制度があります。この制度の詳細については運営委員にご相談ください。



# ショート利用希望者への対応



みどりの丘 参番館責任者 村山 昭夫

近年において施設を利用される高齢者は、介護保険導入時と比べ急激に増加しております。この要因には高齢者そのものの増加もありますが、生活環境における意識変化もあるようです。ご家族が施設利用に対し対抗感が少なくなった事、高齢者の急変が多く介護を専門に扱う老人介護施設が増加した事等が挙げられます。みどりの丘を入居する場合は、短期利用（ショートステイ）と長期利用がありますが、一概に初めから長期で入居することより、大方の利用者はショートステイから始めます。その理由としては「今までの自宅の生活を捨てきれない」「この施設が自分に合っているか不安」「サービス内容が十分つかめない」「お金がいくら必要か」などのようです。この様な内容にも充分にご説明をさせて頂いておりますが、更に（長期入居希望）の利用者様に対しても、施設内容全体をご理解して頂くために、まず安心して試せるショートステイを初めにお勧めしているのです。

又、当初から短期利用として申し込まれる方々も増加しています。これは、ご自宅で介護を受けられている利用者様のご家族が、外出（旅行や出張等）されたり急な入院・冠婚葬祭また利用者様ご自身の退院後のリハビリ目的としての施設利用が多く挙げられます。又、最近の傾向として介助者（ご家族様）の一時的な介護休息としての利用多くなって来ました。老々介護や重度介護者の介助疲れが原因でいろいろな事故が発生していますが、この解消役としての施設利用が多くなっているように思われます。

さてショートステイご利用者のご病気やご様子を把握する方法は、介護サマリー・看護サマリー、またご家族様からは日頃の生活の様子を充分にお尋ねをし、「施設ではどのようなサービスが必要か」を読み取る努力をスタッフ全員でいたします。最近、お年寄りご夫婦、もしくはお一人で住まわられている利用者様も多くなっていますが、医療的な難しいお話などは、ご利用される本人の了解のもと主治医や担当ケアマネージャーに確認し、お世話



一般利用者用居室

させて頂きます。また、利用中の身体急変に対して協力医師診察、付設の訪問看護ステーション・医務部による（吸引、酸素、点滴など）あらゆるサービスに対応ができる様に、常に最善を尽くす体制を整えご利用者様をお待ちいたしております。

私達ケアスタッフは利用者様に不便を掛けたくないし、また安心して、楽しくご利用頂く事が最大の目的です。ショートステイの泊一泊をも、「ご利用される方々の気持ちを大切に快い対応をする」。絶えずこの心がけを持ちながら、みどりの丘ご利用をお待ち致しております。介護に困った時などは是非ご相談下さい。皆様のお役に立てるこのみどりの丘に電話を入れて見て下さい。親切・丁寧に対応させて頂いております。先ずは、一度ご見学をおすすめ致します…。

認知症の専門介護者になって、2年が過ぎました。日頃私が、介護をする上で大切にしていることがあります。

- 1、介護者自身が心身ともに健康である。
- 2、話し掛けをする、話掛けられたら心を込めて言葉を返す。
- 3、健康状態が良い時の動きを把握しておく。
- 4、食べ物、嫌いなものより好きな食べ物を覚えておく。
- 5、水分補給、食事、排便、運動は認知症介護の基本。
- 6、介護者、皆が仲良く協力し合い助け合っていく。
- 7、その人を大切に思う心を持つ。…などです。

介護者がいつも明るく、そして心身ともに健康であることが、なによりも大切なことだと思います。又、お年寄りとの生活の中で、日頃の健康状態をよく観察、把握し、少しの異変にも気付く洞察力と観察力で、体調異変をいち早く察知し、医療への伝達や適切な対応、また素早く処理することの出来る介護技術を私達自身につけてきました。

日常生活の中では、特に認知症の人に難しい水分補給、食事、排便、運動の重要性を認識して、動きを見守ることに気を付けています。

この見守りの中から、お年寄りが今何を考えているのか、心の中を読み取り、深層を理解する様な介護が出来なければならぬと思ひ、これを目指しています。

認知症の症状に対する介護技術で最も必要なことは、「優しい心、やさしい言葉かけ、そしてその人を大切に思う心」です。（4月よりオーバーズセキの責任者に就任しました）

## 認知症の症状に対する介護技術

セキ責任者 渡辺セツ子



全員で声を出しながらリハビリ体操

**厚木 新責任者挨拶**

山田 裕司

今年の4月1日付け小田原事業所から移動となり厚木事業所の責任者となりました。厚木の勤務は、あっという間に1ヶ月が過ぎ、最近入居者の方々の顔と名前が一致するようになりました。入居者の方も、私を覚えてくれた感じです。厚木事業所は、近に参番館、セキ、グループホームが在るので、今年も恒例・合同での「盆踊り大会」を行いたいと思います。

入居者の方々には、日々安心して生活が出来るようにし、また楽しい催しも計画中です。「山田が来て、一層楽しくなった」と皆様から思っている厚木事業所になるよう一生懸命に努力致します。

**小田原 新責任者挨拶**

山口 章二

小田原事業所に赴任して早一月半を経過しました。小田原の職員は介護職・事務・医務・環境整備・厨房と総勢二十三名在籍しています。

職員個々の専門意識は高く、堅実に業務を遂行しています。これは、チームワークが良い為だと思います。

利用者さんに楽しく健康で安心した生活を送って頂きたく、この思いを職員全員が信念として、毎日の業務に取り組んでいます。

## 春の目覚め（やつと成果が）みどりの丘園芸倶楽部 磯野 啓治

暖冬と言われましたが3・4月は低温の日が続きました。しかし植物は季節を忘れず4月に入ると冬のコート脱ぎ捨て、春の日差しをいっぱい浴びながら葉を広げまた開花を始めます。今年から入居者さんが、「自分で毎日水やり温度の管理など、丹精を込めて育てている植物を他の方々にもご披露しよう」。この様な意気込みで「第1回植物展示会」を始めました。入居者さんも、今年も頑張つて冬を乗り越えたぞ！「冬の水やりむずかしけど、やつと花が咲きますね！...」中には今年になって花を買い求め展示会に間に合わせた方や、職員は自宅で育てた盆栽などを出展される人、また本格的フラワーアーティストな生花を出展される職員など盛況な展示会でした。

入居者の心の中に、次回の展示会にも必ず出品しようという意気込みが見られます。

「日々目標を持つ」これは健康の条件だと思います。

（展示会に参加した入居者の詩を紹介します。）

お花見会 日差しに 光り はこらしげ  
作 セキ 生田ウタ子

利用者・職員の展示作品

## 編集後記

皆さんの協力で山茶花は発刊20回を数えることが出来ました。今回は、みどりの丘を利用希望する方に解り良くする為、利用方法・介護サービス・取組み姿勢・技術を中心に寄稿願いました。

4月に移動になった事業所責任者の方々、今後の活躍を期待いたしております。今回イラスト協力の平津沙織さん、有難うございました。

編集委員 青木 まゆみ

